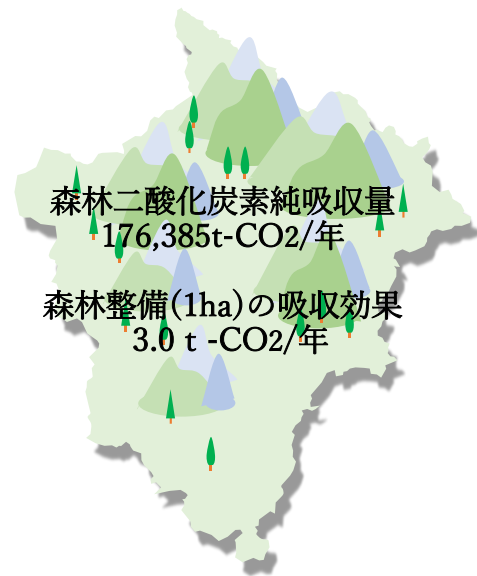


意見番号 6 森林の二酸化炭素吸収効果等

(5) 森林の持つ地球温暖化防止機能

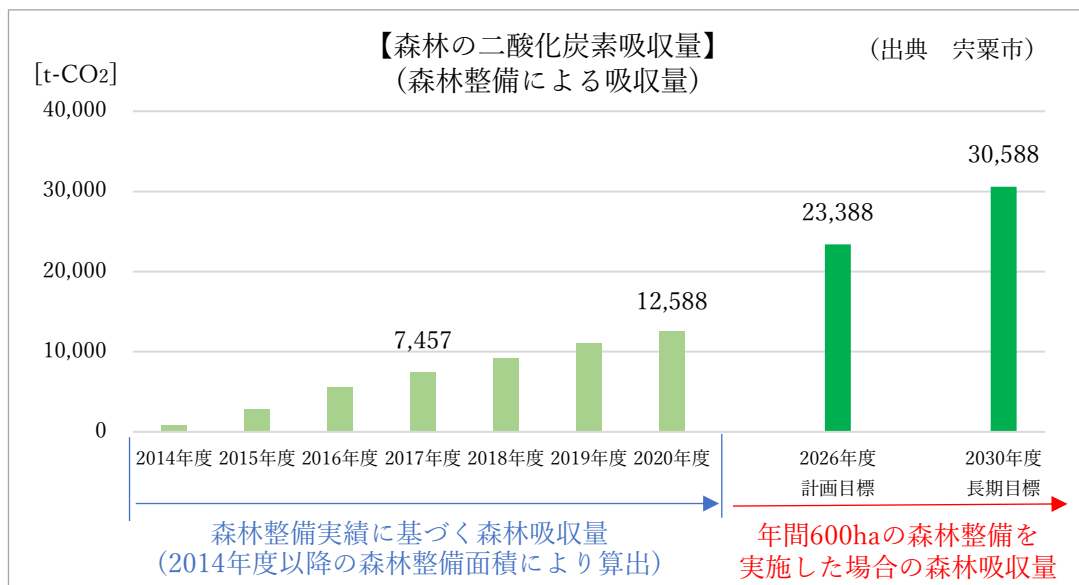
① 市内森林の二酸化炭素吸収・固定

市の総面積の約 90%を占める森林の樹木は、光合成により二酸化炭素を吸収・固定し、酸素を排出しています。市内の森林の樹木の成長量（炭素蓄積量）から二酸化炭素純吸収量を推計すると、年間の吸収量は、176,385t-CO₂となります。本計画においては、市内の森林の全ての二酸化炭素純吸収量を吸収効果として計上するのではなく、二酸化炭素排出量の基準年度を 2013 年としていることから、2014 年度以降に間伐等の森林整備が実施された、森林の二酸化炭素の吸収量を対象とし、森林整備実施 1 ha 当たりの吸収効果を 3.0t-CO₂/年として、森林整備を進めます。



② 森林整備による二酸化炭素の吸収効果

当計画においては、2026 年度における人工林整備率 44.6%（年間 600ha）を目標に人工林の整備に取り組むとしています。2014 年度から 2020 年度までの実績と 2021 年度以降は年間 600ha の森林整備による二酸化炭素吸収効果を削減量として市内の排出量から差し引くことにより、目標を設定します。



年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2026	2030
年間整備面積[単位：ha]	267	668	936	614	574	623	514	600	600
累計整備面積[単位：ha]	267	936	1,871	2,485	3,059	3,682	4,196	7,796	10,196
森林吸収量[単位：t-CO ₂]	802	2,807	5,614	7,457	9,178	11,047	12,588	23,388	30,588

※ 四捨五入により合計等とは一致しない場合があります。